RAPIDEの本物志向

なぜ"新型"なのか……？

ヘルメットの新型を出す時は、いろいろ悩みます。ユーザーにとってその新型がどんな意義をもつことになるのか、この点に納得がいかない限り、世に出す意味がないからです。Arai には、ワールドチャンプのフレディー・スペンサーお気に入りのモデルもすでにあります。空力をつきつめたトロフィーもあります。それなのに、まだフルフェースの新型をふやす必要があるのか。Arai は悩みました。

でも開発だけは進めました。あれこれ頭の中で悩むことと、新しいものに取り組もうとする意欲は全く別だからです。そしてこの意欲をかきたてたのは、オモチャみたいにチャラチャラしたヘルメットも結構売れている世の中には"本当に強くて速そうで安全なヘルメット"がもう一つくらいあってもいい、という考えでした。こうして「ラパイド」の構想は、試作プログラムに組み込まれました。

テスト！テスト！での発見。

モックアップモデル、試作金型の製作、衝撃吸収体設計試作、内装試作、チェックなど、試作プログラムは精力的に進められました。でも試作モデルが完成した時点では、まだ販売すべきだとの確信は持てませんでした。しかし試作品ができたからには、これをかぶり、コースを走り、使用試験を行ないました。そして、そのテスト走行の結果、空力特性とかぶり心地が予想以上によいことを発見し、すっかり気に入ってしまいました。そのあと人目のないときですが市街地も走ってみました。そしてショーウインドウに映る自分の姿を見ると、これが実に強そうで、速そうに見える。いってみれば、とてもスパルタンな感じなんです。これならきっと喜んでかぶってもらえる。そんな自信をもって「ラパイド」にGOサインを出すことができました。'83年初春のことです。

この時から本格的な準備が始まり、空力にも専門的な見直しが加えられました。量産モデルのプロトタイプができると海外のライダーにもお願いし、人目のないテストデーにじっくり試してもらい、世界GPでも充分に使えるヘルメットであることを確認してもらいました。安全性では、'83年秋にスネルの承認も受け、生産体制も着々と整えていきました。

四輪用のテストで、さらに自信。

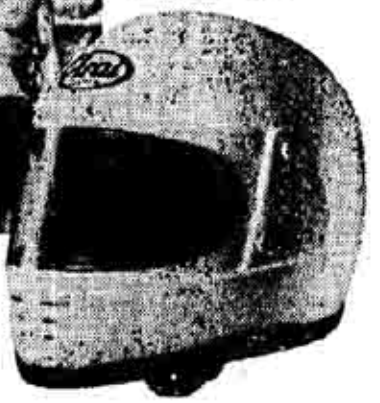
これと並行してラパイドベースの四輪用ヘルメットの開発も進めました。ところで、ホンダエンジンがF-1にカムバックしたのはご存知ですね！今年はそのホンダが戦闘力あるウイリアムズ・ティームの車につまれ、'82年F-1世界チャンピオンのケケ・ロズベルグのドライビングで世界一の座も期待されています。そのケケ・ロズベルグも「ラパイド」ベースの四輪用ヘルメットを使います。しかし新しいヘルメットを使うにあたっては、真夏のレースでも万全であることを確かめておく必要があります。冬のシーズンオフに真夏といえば、もう南半球だけ。そこでこの冬、Arai の開発ティームは、気温40℃というブラジルでのF-1テストにも駆けつけました。その際、二輪用の「ラパイド」も持参して再テストしたのは、いうまでもありません。

四輪用の内装は不燃性布地が使われますが、基本構造はかぶり心地を含め二輪と同じにできています。Arai がブラジルに持って行ったケケ用のヘルメットは、市販品の(57-58)と同じ。これをケケにテストしてもらいましたが"このままでいい！"といっていただきました。かぶり心地には、また一つ自信がつきました。

「ラパイド」の本格デビュー戦。

この雑誌が発売される頃には、'84年のシリーズ戦も始まります。そして徳野正樹、上野眞一、上田幸也など、そうそうたる選手達が「ラパイド」をかぶって活躍しているはずです。鈴鹿8時間の雄、マイク・ボールドウィンも、今年は「ラパイド」です。

ところで、よくカッコいいとか悪いとかいわれますが、"本当にカッコいいヘルメットというのは、店頭で見た時にそういえるのではなく、かぶって走る自分をカッコよく見せるヘルメットのことなんだ"と思います。もちろん実質的な機能をしっかり満たしての話です。本物志向で作られ、かぶる自分を強そうで速そうに見せる「ラパイド」、きっと喜んでいただけることでしょう。



●規格：スネル ●色：白、赤、黒、シルバー
●サイズ：(55-56)、(57-58)、(59-60)、(61-62)
●価格：¥27,000

Arai HELMET
F-1レースも Arai のテストグランド。そこで培われた技術は全ての Arai 製品に生きています。

(株)新井広武 〒330埼玉県大宮市東町2-12
☎0486(41)3825-7